日韓共同研究に関する覚え書き（MOU）の締結

独立行政法人農業環境技術研究所と大韓民国農村振興庁農業科学技術院は,2001年10月31日，今後５年間に渡り共通の農業環境問題を共同で解決するため，その基盤となるＭＯＵ（協定覚え書き）を締結した。

ＭＯＵの調印は，韓国水原市農村振興庁において，立会人および両研究所の関係者が列席する前で，農業環境技術研究所の陽　捷行理事長と農業科学技術院の鄭 武男院長の間で行われ，この日から発効することになった。日本と韓国との農業環境技術に関する研究協力は，この覚え書きにより新しい時代に入ったといえよう。

今回締結した協定覚え書きの内容は，協力支援事項，運用方法，成果の取り扱い，不合意点の調整など，二国間で共同研究を共同実施する際に必要最低限の条項を約束するものである。今後，この覚え書きのもとでモンスーン・アジア固有の農業環境に関する多様な研究課題を共同で推進することが期待される。

この覚え書きのもとに実施が計画されている最初の研究テーマとして「農業生態系における水質・水収支にかかわる環境影響評価の研究」が挙げられている。現在，来年度からの実施に向けて両国の間で調整が進んでいる。

独立行政法人設立記念石碑の除幕式が行われる

当所では，独法化を契機にロゴマークとキャッチフレーズを作成した。これらは，農環研ニュースや要覧を始め，所のさまざまな刊行物に使われている。このたび，筑波石に刻んだ当所のキャッチフレーズを玄関前に設置し，その除幕式が11月15日に行われた。

キャッチフレーズの「風にきく　土にふれる　そして　はるかな時をおもい　環境をまもる」は，時間と空間を超えて生じている農業環境問題を解決し，健全な農業環境を次世代に受け渡していこうという想いをこめたものである。

筑波石は，年とともに黒味を帯びてくるという。その時，刻まれた文字が鮮やかに目に入るようになるだろう。そして，当所の研究がその想いを成就していることを期待する。

なお，英語版キャッチフレーズは以下のとおりである。

Conserve the environment
by listening to wind，observing soil
and thinking of our future